

第34回 国際農業機械展 視察レポート

北海道統括支店 業務課 森山 淳也

7月12日～16日、帯広市にて4年ぶりに開催されました国際農業機械展を視察してまいりました。

会場は過去最高の134社が出展しており、トラクターメーカーをはじめ販売店や部品メーカー、中国や韓国、イタリアなど海外メーカーも出展されていました。

当日は天候に恵まれ、初日から会場は多くの人で賑わってまいりました。

ここ数年で多く導入されている各社の搾乳ロボットの展示ブースも興味深く見させていただきました。ロータリー搾乳ロボットでは、どこからミルクが出てくるのか確認できました。

人材不足の近年では、搾乳ロボットの導入も増えていくと予想されますがロボットの導入増に伴い機械をメンテナンスする方が人材不足にならない様各社はご苦労されていると思います。



大型トラクターは400馬力以上のものが展示され重量は約12トンであり、その威風堂々とした雰囲気が目が釘づけとなりました。

大型トラクターが大型作業機械を装備して圃場を作業することは大面積を効率良く作業ができるメリットがありますが、その重量から草地や圃場の地盤への負担も大きく、硬盤層の対策も同時に必要だろうと感じた次第です。

今回の視察の目的の1つにドローンが有りました。販売店の方に話を聞くとドローン1台と免許取得費用



などで費用は約250万とのこと。法律の規制が解除されれば、自動運転も可能となり、その操作技術は平準化されドローンの活用が増えそうな予感がしまし

た。見せて頂いたドローンは1台9kg程度で10ℓの農薬タンクを装備していました。作業委託してくれる会社は、まだ道内に数社様ですが今後は増える予感があります。

現在では、無人化トラクターが市販される時代となり、さらにサイレージ調整および刈取り作業の自動化システムを開発されているとのことでした。写真は展示されていたサイレージパッカーです。昨年、別海町にて壁際の鎮圧作業は有人車両で、それ以外の場所はサイレージパッカーを装着したロボットトラクターにて作業したとお聞きました。



播種機も4年前の機械展と比較すると大型化且つ、海外からの輸入メーカーの機械が多くなりました。特に欧州（オランダ、ノルウェー、フランス、ドイツ、イタリア）の機械メーカーの機種を視察することがで



きました。

写真はタイヤシューターです。ホイールローダーに設置し、タイヤをバンカーシートの上に移動する装置だそうです。バンカーサイロにサイレージを調整後重しにタイヤを乗せる作業の省力化を目的にしたもので海外製品です。ユーチューブに作業の動画がアップされていました。ご興味ある方はご覧ください。

普段、農業機械をじっくりと見る機会もない筆者にとりまして、各社の農業機械が展示されたものを視察するには半日では廻り切れず最終日にも再度視察に行った次第です。色々な技術の進歩が体感できる機械展は、国内農業の活性化があってこそと思います。

4年後の開催が楽しみとなりました。



産国	アメリカ
メーカー名	フォード
形式	640 31馬力
製造年	1956年式
出展者	青森県 池田 猛

昔のトラクターも展示されていました。